

2. 検定取得は、パターンが現れている。1つの目安になる。

25才前後で関連職種の2級、30才までに関連職種の1級を取得している、というパターンが読みとれる。

育成を進めるに当たって

1. 実作業は、NC機械が多く、汎用機械は少ない。検定には、準備講習が必要であろう。

今後の検討課題としては

1. 特級技能検定は、昭和63年に始まったので受験の年代を捉えにくい。
2. NC関係の級も昔の人は、職種自体が整備されてなく取得できなかった経緯がある。NC世代の技能者の調査が必要である。

年代別技能形成過程データ（表4-3、表4-4、表4-5）の作成

調査した熟練技能者の年齢が異なるので生年月日を基に西暦（参考和暦）と年齢を重ね合わせ各技能者の時代背景との関係について比較を行った。NC工作機械の普及や各検定の開始時期が職種によって異なることを考慮した表となっている。データは、仕事、資格合わせて記述してある。

調査対象の技能者の6割ほどが、20代で汎用機、20代後半からNC機の普及時期に入りその担当となっているのがみられる。新技術に対応していった経過が分かる。

数値制御（NC）フライス盤1級の検定は、現在50才前後のE、Hさんが1980年頃に、45才のA、Cさん（マシニングセンタ1級）が1986年頃に取得している。両グループ共に各自30代前半に取得しているという共通点が見られた。Dさんの場合は、少し年齢が下であるので入社時にはすでにNCの普及期に入っている。そのため、取得年齢が早まっているのではと考えられる。

特級に関しても1988年開始ではあるがBさんHさんは1989年に40代で取得している。その後EさんGさんは40代になってから取得している。

